

霧島市上小川地区(鹿児島県霧島市)

(構成：女性12名(民生委員や在宅福祉アドバイザーも参加))

在宅福祉アドバイザー：ひとり暮らしや寝たきりのお年寄り・障害者などの要援護者に対し、声かけや安否確認などを行う「地域見守りネットワークづくり」を進め、要援護者のニーズに応じた在宅福祉サービスの円滑な提供体制の構築及び効果的な推進を図るための取りまとめ役を担っている。

《活動主体の概要》(平成28年2月1日現在)

総人口： 2,503人

高齢者数： 569人

(高齢化率：22.73%)

世帯数： 1,109世帯

地理的構造：比較的市街地に近く、大きな工場や小学校もあり、昔からの住宅地と新興住宅が混在する地域である。



活動のきっかけ

平成25年度に、上小川地区公民館長から、地域での支え合いマップづくりに取り組みたいとの要望を受け、上小川地区19自治会のうち9自治会(およそ170世帯)の支え合いマップづくりに取り組みました。

その結果、地域内に外出困難な一人暮らし高齢者がとても多いことが分かり、また、知っていると思っていた人の家の周辺についてしか把握していないことに気が付かされました。

支え合いマップづくりから発見された課題とその対応策について話し合いを行い、「日頃から行っている『婦人会の行事食づくり』『公民館で行っている学童保育の給食提供』『月2回の乳幼児対象の子育てサロンのおやつ提供』のノウハウを活かせないか」との社協からの提案を受けて、地域住民で週2回おかずを作り、安価で販売し、外出が困難な方に対しては、自宅へ届けることぐらいはできるかもしれないとの思いで活動が始まりました。

活動方法

地域の女性12名(最高齢82歳)で「はつらつ会」を立ち上げ、週2回(月曜日と金曜日)に地区公民館で、おかずづくりを実施しています。

栄養バランスを考えた総菜を4種類程度作り、1パック150円で販売しています。

毎回120食程度作り、そのうち90食は自宅へ配達しています。

その結果、おかずを配達することが、安否確認や会話ふれあいの機会等の見守り活動にもなっています。

また、もともと地域内で子どもたちの登下校時見守りパトロールを行っていた男性達が、「はつらつ会」の精力的な活動に影響を受けて、男性サロン「うぶすな会」を立ち上げ、「はつらつ会」の活動と連携し、地域内の草刈り等の困りごとの支援を行う等、住民相互に元気をもらい活動を楽しんでいます。

工夫点

配達には会員が手分けして行い、配達箇所は会員の自宅周辺を中心にする事で、日頃からのつながりを活かした見守り活動

となっています。

また、会員には、民生委員や在宅福祉アドバイザーも参加しており、配達後は、昼食を取りながら情報交換を行い、活動に反映させています。

さらに28年度より、会員からさらに二人が在宅福祉アドバイザーとして活動することになっており、今まで以上にきめ細かな見守り活動を行っていくことにしています。



成果

おかずを購入する高齢者の中には、「少しでも協力できたら」と、おかずの材料になる野菜を作り始めた人もいます。

おかず作りを行っている公民館に直接購入に来る高齢者にとっては、会員や他の購入者との会話を楽しむ「居場所」としての効果もあります。

また、口コミで評判になり、高齢者だけでなく子育て中の母親や、ひとり暮らしの男性など「対象者を限らない食事支援」としてたくさんの方に喜ばれています。

今回のおかずづくりの活動が始まったことが、「食事支援」「居場所づくり」「生きがいづくり」へとつながっています。



課題

現在の会員が高齢化しているため若い会員の加入促進が一番の課題です。

また、現在は全くのボランティアでの活動ですが、若干でも会員への還元ができないか考えています。

代表者、事業者等の声

おかずづくりは地域の中でもともと実施していたことなので、「総菜づくりくらいならできる！！」という自信がありました。何もかも誰かに頼るのではなく、「地域でできることは地域で！！」「やってみなければわからない」の精神でチャレンジすることが大切です。「上小川に住みたい」と思ってもらえるような地域にしたいです。

地域福祉は特別なことではありません。隣近所とのお付き合いの延長だと考えています。

